

2025 年度社会学連携活動報告書

兵庫医科大学社会学連携・研究推進センター

2026 年 6 月

《はじめに》

兵庫医科大学は、医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部を有する医系総合大学として、教育・研究・医療の成果を社会に還元し、地域社会の健康増進および課題解決に寄与することを目指している。2025年度においても、社会学連携・研究推進センターを中心に、地域住民、自治体、医療・福祉関係機関、職能団体、企業等との連携を通じ、多様な社会学連携活動を実施した。

2025年度の活動では、地域高齢者の健康づくり、介護予防、認知症予防、女性の健康、親子・子育て世代への支援、薬剤適正使用、科学体験、禁煙啓発等、幅広いテーマに取り組んだ。また、各活動には学生が参加する機会も設けられ、地域住民と直接関わりながら、専門職として必要な態度、コミュニケーション力、地域課題への理解を深める実践的な学習機会となった。

また、2025年度は、社会学連携・研究推進センターの新体制のもと、従来の部門単位による活動区分から、センター全体として西宮キャンパス・神戸キャンパスを一体的に捉え、法人および学内外の関係機関との連携・情報共有を進める体制へ移行する時期でもあった。今後の社会学連携活動については、社会連携活動、地域連携活動、地域交流活動、生涯教育活動の4つの柱を基本とし、活動の継続性と発展性を高めながら推進していくこととした。

本報告書では、2025年度に実施した社会学連携活動について、活動の実施状況、地域との関わり、主な成果および課題を整理する。これにより、2026年度以降の社会学連携活動をより効果的に推進するための基礎資料とする。

《第4次中期事業計画》

本学は、2023年度から2027年度までを対象とする第4次中期事業計画において、「未来を切り拓く教育・研究・診療の創造に挑戦し、広く社会に貢献する医系総合大学」を目指す姿として掲げている。同計画では、教育、研究、診療、社会貢献の4領域を柱とし、単年度事業計画においても中期事業計画を具現化し、着実に遂行することとしている。

社会学連携活動は、このうち社会貢献の領域に関わる取組であり、本学が有する医療・保健・福祉に関する知見を地域社会に還元し、地域住民の健康増進、地域課題への対応、医療専門職等への学習機会の提供につなげるものである。また、学生が地域住民や関係機関と関わる活動は、専門職としての態度、コミュニケーション力、地域課題への理解を深める教育的機会にもなっている。

以上のとおり、2025年度の社会学連携活動は、第4次中期事業計画に掲げる社会貢献の方向性を具体化する取組として実施したものである。

《活動計画・目標（活動指標・アウトカム指標）》

2025年度の社会学連携活動については、社会学連携・研究推進センターにおいて、社会連携活動、地域連携活動、地域交流活動、生涯教育活動の4区分を基本とし、それぞれの活動指標およびアウトカム指標を設定した。

各区分の活動指標およびアウトカム指標は、次のとおりである。

	活動指標	アウトカム指標
社会連携活動	実施回数4回以上	区分単独のアウトカム指標は設定なし
地域連携活動	参加者数200名以上、介護予防サポーター養成講座20回以上	満足度80%以上、新規サポーター15名以上(介護予防サポーター養成講座)
地域交流活動	参加者数200名以上	満足度80%以上

生涯教育活動	参加者数 100 名以上	—
4 つの活動を総合した指標	—	卒業生県内就職 50%以上

これらの指標を踏まえ、2025 年度の各活動について、実施状況、参加状況、満足度等を確認し、次年度以降の活動の改善および発展につなげることとした。

《地域とのつながりについて》

本学の社会学連携活動は、地域住民、自治体、医療・福祉関係機関、職能団体、企業等との連携を通じて展開している。こうした地域との関係は、在学中の教育・研究・社会貢献活動にとどまらず、卒業後に学生が地域医療・地域保健・地域福祉等を支える人材として活躍することにも表れる。

2025 年度の薬学部、看護学部およびリハビリテーション学部の卒業生について、就職先所在地をもとに兵庫県内および神戸市内への就職者数を確認した結果は、次のとおりである。なお、神戸市内就職者数は兵庫県内就職者数の内数である。

【表 2025 年度卒業生の兵庫県内・神戸市内就職状況】

区分	卒業生数	兵庫県内就職者数	神戸市内就職者数
薬学部	105 名	9 名 (8. 6%)	3 名 (2. 9%)
看護学部	109 名	86 名 (78. 9%)	18 名 (16. 5%)
リハビリテーション学部	84 名	58 名 (69. 0%)	27 名 (32. 1%)
合計	298 名	153 名 (51. 3%)	48 名 (16. 1%)

薬学部、看護学部およびリハビリテーション学部の卒業生 298 名のうち、兵庫県内への就職者数は 153 名であり、卒業生全体の 51. 3%であった。このうち、神戸市内への就職者数は 48 名であり、卒業生全体の 16. 1%であった。

特に、看護学部およびリハビリテーション学部では県内就職率が高く、本学で学んだ人材が卒業後も地域の医療・保健・福祉等を支えている状況が確認できる。なお、薬学部については、薬局、ドラッグストア、企業等の就職先所在地として本社住所または法人所在地を登録せざるを得ない場合があるため、実際の勤務地とは異なる可能性がある。

以上のとおり、2025 年度においては、卒業生の兵庫県内就職率が 51. 3%となり、総合アウトカム指標である「卒業生県内就職 50%以上」を満した。

※医学部卒業生は研修医として医療機関に所属するため、本表では集計対象としていない。

《社会学連携》

2025 年度の社会学連携活動は、社会学連携活動、地域連携活動、地域交流活動、生涯教育活動の 4 区分を基本として実施した。各活動では、地域社会への貢献、地域課題への対応、地域住民との交流、医療専門職等への継続的な学習機会の提供を目的として、本学の教育・研究・診療の成果を社会に還元する取組を推進した。

①社会学連携活動

社会学連携活動は、西宮市・神戸市以外の広域、市府県・都市圏・全国を対象とし、行政機関、企業、他大学等との協働を通じて社会的課題の解決を目指す活動である。2025 年度は、地域在住高齢者の生活課題の把握、健康寿命延伸、フレイル予防、介護予防、地域住民の主体的な健康づくり支援等を中心に活動を実施した。

【表 2025 年度社会学連携活動の実施状況】

No.	プロジェクト名	担当者	実施期間・実施日	主な実績
1	学生参画を通じた地域在住高齢者の	永井宏達	2025 年 4 月～2026 年 3 月	アンケート回答

	生活課題の探索と健康寿命延伸に向けた地域連携（洲本市）			1,142名、住民説明会49名、カラダ測定会84名、行政・企業等協議会31名
2	芦屋市在住のシニア向け「健康通信講座」の運営	永井宏達	2025年4月～2026年3月	参加者12名

洲本市における活動では、地域在住高齢者を対象としたアンケート調査、住民説明会、カラダ測定会、行政・企業等との協議会を実施し、地域の健康課題や生活課題を住民、行政、企業等と共有する機会となった。芦屋市在住シニア向け健康通信講座では、自宅で継続的に健康について学ぶ機会を提供し、参加者の健康行動の改善や、芦屋市および関係機関との今後の連携に向けた基盤づくりにつながった。

以上のとおり、2025年度の社会連携活動では、広域的な地域課題に対して本学の専門性を活かし、行政、地域住民、企業、関係機関等と協働しながら、高齢者の健康づくり、フレイル予防、生活課題の把握および継続的な健康行動の支援に取り組んだ。また、学生が地域の現場に関わることで、地域課題への理解を深める教育的効果も得られた。



②地域連携活動

地域連携活動は、西宮市・神戸市などの地域と制度的・計画的に連携し、地域課題の解決に向けて継続的に取り組む活動である。2025年度は、各学部による公開講座、健康増進プロジェクト、地域貢献プロジェクト、地域連携プロジェクト等を通じ、地域住民の健康増進、地域活動の活性化、学生の地域参加、大学周辺地域との関係強化に取り組んだ。

【表 2025年度地域連携活動の実施状況】

No.	プロジェクト名	担当者	実施期間・実施日	主な実績
1	【公開講座】あなたの脳を元気に！ 今からできる脳の健康づくり	大塚恒弘	2025年6月28日	一般来場者133名、 アンケート回答130名
2	【公開講座】くすりの飲み合わせ	木下淳	2025年9月6日	一般来場者50名、 アンケート回答47名
3	【公開講座】アレルギーと環境	島正之	2025年11月29日	一般来場者46名、 アンケート回答44名
4	リラクセーションを取り入れた健やかな生活を目指して	鈴木みゆき	2026年2月9日・2月24日 ・3月2日	合計122名
5	健康づくりサポーター（介護予防サポーター）の養成プロジェクト	永井宏達	2025年9月10日、2026年 2月13日・20日・27日、3 月9日	延べ148名
6	ポーアイみんなのサイエンスカフェ	大野喜也	2025年8月16日	37名
7	「禁煙キャンパス地区」を目指した 禁煙支援活動の実践	賀屋光晴	2025年4月～2026年1月 の間に計7回	延べ112名

8	神戸市内の集いの場での住民健康活動の支援	大塚恒弘	2025年度内に計29回	487名
---	----------------------	------	--------------	------



公開講座では、脳の健康、薬の飲み合わせ、アレルギーと環境など、地域住民の生活に身近なテーマを取り上げ、健康・医療に関する学習機会を提供した。また、リラクゼーションプロジェクトでは、運動、入浴、睡眠等をテーマに、日常生活に取り入れやすい健康づくりの知識を提供し、学生による手浴・ハンドマッサージ等を通じた地域住民との交流も行った。

健康づくりサポーター（介護予防サポーター）の養成プロジェクトでは、神戸市中央区保健福祉課及び関係機関と連携し、地域住民を対象として、フレイル予防、認知症予防、栄養、運動実践、地域での健康づくり等に関する連続講座を実施した。2025年度は延べ148名が参加し、34名が講座を修了した。受講後はサポーター登録やボランティア活動へつなげ、地域住民が主体となって介護予防及び健康づくりを支える体制の充実を図った。

ポアイみんなのサイエンスカフェでは、小学生を対象とした科学体験教室を実施し、地域住民への科学啓発と学生のサービスマーケティングの機会を創出した。禁煙支援活動では、大学周辺地域における吸殻収集等を通じて、受動喫煙防止および環境美化への意識向上に取り組んだ。神戸市内の集いの場での住民健康活動の支援では、兵庫区および中央区を中心に、地域住民主体の活動継続や健康づくりを支援した。

以上のとおり、2025年度の地域連携活動では、公開講座、健康づくりサポーターの養成、健康増進、科学啓発、禁煙支援、住民主体活動支援等を通じて、地域住民の健康増進と地域活動の活性化に取り組んだ。特に、健康づくりサポーター養成プロジェクトでは、地域住民が介護予防及び健康づくりの担い手として活動するための知識と実践力を身につけ、修了後の地域活動へつなげる人材育成を行った。各活動は、本学の専門性を地域に還元するとともに、学生が地域住民と関わりながら実践的に学ぶ機会にもなり、地域と大学が相互に学び合う基盤づくりにつながった。



③地域交流活動

地域交流活動は、地域住民との直接的な交流や支援を広く行う活動である。公開講座、健康相談、体験型イベント、ワークショップ等を通じて、地域住民が健康、医療、福祉、生活、防災、科学等に関する知識を得る機会を提供し、地域住民と大学が相互に関わる場を創出することを目的とする。2025年度は、がん患者・家族支援、嚥下機能低下予防、幼児期からの性教育、認知症カフェ、健康と平和に関するワークショップ、放射線教育・薬剤適正使用、科学体験、母子・家族支援、女性の健康、脳と心の健康チェック等、多様なテーマで活動を実施した。

【表 2025年度地域交流活動の実施状況】

No.	プロジェクト名	担当者	実施期間・実施日	主な実績
1	がん患者・家族を支援する医療職者のためのがんケアヨガ	府川晃子	2025年6月14日	9名
2	嚥下機能低下予防講座	桂木聡子	2025年12月13日、2026年	ホテル会場49名、

			3月13日	オンライン 48回
3	幼児期からはじめる性教育 ～どうやって子どもに教えたらいい?!～	川内恵美子	2025年12月21日、2026年1月25日、3月7日、3月15日	計17名
4	「認知症カフェ」での健康増進イベント	清水大輔	2025年4月19日、5月17日、他7回	各回20名程度
5	ポーポキ・ピース・ネットワーク「健康って、なに色？」	桂木聡子	2025年10月18日	10名
6	薬学生による放射線教育及び薬剤適正使用に関する活動	藤野秀樹	2025年10月28日	67名
7	夏休み自由研究! バスボムを作って化学反応をみてみよう!	岩岡恵実子	2025年8月9日	25名
8	助産師と一緒に考えてみませんか?	田村康子	2026年3月1日、3月14日	約20名、1名
9	知っておきたい女性の健康講座	森明子	2025年9月19日	8名
10	脳と心の健康チェック2025	土江伸誉	2025年12月6日、12月7日	21名



がん患者・家族支援、嚥下機能低下予防、幼児期からの性教育、認知症カフェ、母子・家族支援、女性の健康、脳と心の健康チェック等の活動では、地域住民や医療・福祉関係者が、自身や家族の健康、生活、子育て、介護、防災等について学び、考える機会を提供した。各活動では、少人数での対話や体験を重視し、参加者が日常生活に取り入れやすい知識や支援方法を得られるよう取り組んだ。

また、ポーポキ・ピース・ネットワーク、薬学生による放射線教育及び薬剤適正使用に関する活動、バスボム作成を通じた科学体験等では、健康や平和、防災、薬剤適正使

用、科学への関心を高める機会を提供した。これらの活動には学生が参加するものもあり、地域住民に専門的知識を分かりやすく伝える経験を通じて、学生にとっても実践的な学習機会となった。

以上のとおり、2025年度の地域交流活動では、地域住民の健康、生活、防災、子育て、女性の健康、認知機能、薬剤適正使用、科学教育等、多様なテーマを扱った。各活動は、地域住民が大学の専門的知見に触れる機会となるとともに、大学と地域住民が直接関わり、相互に学び合う場として機能した。



④生涯教育活動

生涯教育活動は、医療専門職を対象とした継続教育であり、卒業生や地域の医療従事者に対して、専門知識の更新、実践能力の向上、職能に応じた継続的な学習機会を提供する活動である。2025年度は、薬学部において薬学部生涯研修セミナーおよびEvidence Based Medicine (EBM) 実践講習会を実施し、医療専門職の学び直しと専門性向上を支援した。

【表 2025 年度生涯教育活動の実施状況】

No.	プロジェクト名	担当者	実施期間・実施日	主な実績
1	薬学部生涯研修セミナー	清水忠	2026年3月1日、3月22日	第1回はハイブリッド形式で実施し、対面10名、オンライン44名の計54名が参加した。第2回は対面・ワークショップ形式で実施し、16名が参加した。計2回、延べ70名が参加した。
2	Evidence Based Medicine (EBM) 実践講習会	清水忠	2025年4月～2026年2月	計11回実施し、延べ206名が参加した。

薬学部生涯研修セミナーでは、オンライン参加やワークショップ形式を取り入れ、多様な状況や学習目的に応じた受講機会を提供した。これにより、遠隔地や対面参加が難しい医療専門職にも学習機会を広げ、講師・参加者間の意見交換を促した。また、Evidence Based Medicine (EBM) 実践講習会を計11回実施し、継続的な学習機会を提供した。

以上のとおり、2025年度の生涯教育活動では、両事業を計13回実施し、延べ276名が参加した。薬学部を中心に、卒業生および地域の医療従事者に対する継続教育の機会を提供した。医療専門職の知識・技能の向上は、地域医療の質の維持・向上にもつながるものであり、本活動は、広い意味で地域社会への貢献を支える取組として実施したものである。

《まとめ》

2025年度の社会学連携活動は、社会学連携・研究推進センターの新体制のもと、社会学連携活動、地域連携活動、地域交流活動、生涯教育活動の4区分を基本として実施した。各活動では、自治体、地域団体、医療・福祉関係機関、職能団体、企業、他大学等と連携し、高齢者の健康づくり、介護予防、認知症予防、薬剤適正使用、科学体験、防災、女性の健康、子育て支援、生涯教育等、多様なテーマに取り組んだ。

活動全体としては、本学の教育・研究・医療に関する専門的知見を地域社会へ還元するとともに、地域住民の健康増進、地域課題への対応、学生の実践的学習機会の提供、自治体・地域団体等との連携強化につながる取組を進めることができた。また、複数の活動において学生が地域住民と直接関わり、企画運営、測定補助、講座補助、説明等に参加したことは、専門職として必要なコミュニケーション力や地域課題への理解を深める機会となった。

一方で、2025年度は新体制への移行期でもあり、活動区分ごとの実績把握、参加者数・満足度等の記録方法、学生参加状況の整理、写真・広報素材の蓄積等については、今後の改善課題である。今後は、各活動の目的、対象、実施内容、参加者数、成果等をより把握しやすい形で整理し、年度末の点検・評価や次年度以降の活動改善に活用できる仕組みを整える必要がある。

また、アドバイザリーボード会議では、地域・大学・企業が関わり合う形での活動展開や、学部を越えたプログラム、多職種が集まる生涯教育プログラムの企画について意見があった。これらの意見も踏まえ、今後は、社会学連携・研究推進センターの横断的な体制を活かし、企業、自治体、地域団体等との連携をさらに広げるとともに、各活動をさらに発展させていく。

2026年度以降は、4区分に基づく社会学連携活動を継続的に推進し、地域社会への専門的知見の還元、学生の実践的学習、医療専門職への継続教育、自治体・企業・地域団体との協働を一体的に進めることで、本学の教育・研究・医療の成果を社会に還元し、地域社会の健康増進と課題解決に寄与していく。